

## 平成29年度 中井中学校学校評価の結果と分析

- ①各項目を「たいへんよい」「よい」「あまりよくない」「よくない」の4段階で評価した。  
 ②表中の数値は「たいへんよい」「よい」の合計%である。  
 ③「たいへんよい」「よい」を選択した生徒・保護者・教師が80%を超えた場合は達成できたと判断する。  
 ④ ②が60%以上、80%未満の場合は十分ではない、と判断する。  
 ⑤ ②が60%未満の場合は次年度に向けて対策を考え、改善に努める。

No.	調査項目(設問)	肯定感			分析・手立て	方向性
		生徒	保護者	教員		
1	生) 学校のスローガンを知っている 保) 学校は教育目標・方針を伝えている 学) 教育目標・方針を生徒や保護者に理解されるよう工夫している	67%	83%	100%	昨年度調査と比較して、生徒・保護者ともに肯定感が下回っている。学校スローガン・教育目標、方針とも学校・生徒・家庭が連携して、よりよい学校を築いていくための旗印であり、めざすところである。教職員の肯定感が100%で生徒・保護者の肯定感が低下しているギャップに大きな課題を感じる。生徒や保護者が実体験の中でスローガンや教育目標をどのように感じているか、それを達成感や自己有用感につなげることができているか、しっかりと把握する必要がある。	言葉としてのスローガンや教育目標ではなく、個々の生徒が自分の目標に向かって、毎日の授業や学校行事等様々な場面で努力をし、自己有用感を高めるためにスローガンがあり、その結果として教育目標が達成されることをしっかりと伝えていく。様々な機会を有効に活用して、生徒や保護者の心に染み入るような伝え方を学校全体として取り組んで行く必要がある。
2	生) 学校行事を楽しみにしている 保) 子どもは学校行事を楽しみにしている 学) 中井中学校は学校行事が充実している	85%	94%	100%	生徒・保護者・教員ともに85%を超えているので、達成できたと判断できる。	協力して取り組むことや、体を動かすこと・歌うことに苦手意識を感じている生徒が、少しでも自分からやってみようという気持ちをもって参加できるように、教師が十分なサポートに努める。
3	生) 部活動を真面目に取り組んでいる 保) 子どもは部活動を真面目に取り組んでいる 学) 中井中学校は部活動が充実している	92%	98%	96%	生徒・保護者・教員ともに90%を超えているので、達成できたと判断できる。	今後も充実した活動が行えるように、教師の時間確保と部の精選に努める。
4	生) 授業はわかりやすい 保) 子どもは学校での勉強がわかりやすいと感じている 学) 研究の取り組みや指導法の改善を通して、子どもの学習意欲が高まっている	77%	65%	100%	教員は、授業改善に努めているが、授業でのわかりやすさに、反映していない様子が見受けられる。授業や単元における振り返りを実施する教員も多く、その活用のしかたを工夫することにより、生徒の意欲向上につながると考えられる。	教科における振り返りの効果的な活用のしかたを研究等で話題にし、職員間で共有を図る。
5	生) 先生は自分の努力を認めている 保) 子どもは努力や能力を学校は適切に評価している。 学) 子どもは努力や能力を公平、適切に評価している。	82%	93%	100%	努力の容認については、生徒・保護者、教師ともに評価がほぼ一致している。これは、生徒の提出物へのていねいなコメントの記述やグループワークにおける活躍の場の設定など、生徒の学習活動への細やかな配慮と対応の成果であると考えられる。	生徒の提出物へのコメントの記述、授業で生徒が活躍できる場の設定など、今後も継続できるようにしたい。
6	生) 家庭学習に取り組んでいる 保) 家庭学習に取り組んでいる 学) 子どもたちが家庭学習に取り組むための指導を適切に行っている	56%	50%	96%	継続して家庭学習ができる工夫、例えば提出した努力が一目でわかるグラフや、学期末には学年で表彰するなど、各学年で取り組みへの意欲を高める工夫をしている。しかし、数値に差があるのは、生徒も保護者も小学校での家庭学習と比較している可能性があり、中学校にも小学校並の家庭学習を要求していると考えられる。	取り組みへの意欲を高める工夫は継続し、自主学習の習慣の確立の一助となるようにする。
7	生) 先生は、いじめやけんかに対して対応している 保) 学校は、いじめの未然防止に真剣に取り組んでいる 学) いじめ・不登校の問題に、組織的に取り組んでいる	82%	77%	100%	・おおむね80%なので、ほぼ達成できているといえるが、前年度と比較すると、生徒-4%、保護者-7%と少しずつ減少してきている。年々課題を抱える。また支援を多く必要とする生徒も増加している。個への対応等が難しくなっているが、高いレベルでの相談活動や日ごろからの声掛けを行う頻度や内容の濃さを意識して続けていくことが必要と思われる。 ・職員どうしの何気ない会話や、教科担任・部活動顧問等⇄学級担任・学年職員との連携、情報交換はスムーズに行われていると考えられる。今後も、個々の職員の価値観や指導方法が、微妙に異なる点はお互いに認めながら、かつ互いに、授業研究のように互いの生徒指導を学ぶ姿勢を続け、われわれが常に進化していくことが必要と思われる。	・すでに取り組んでいる学年もあるが、①新学年スタート約1週間後くらい、②夏休み終了後、③冬休み終了後に、生徒と担任による2者面談を実施する。また、学級担任、教科担任、学年職員、部活動顧問、専門委員会担当等により、相互に生徒の頑張っている様子や支援が必要となるなど、随時情報交換と共通理解をはかっている。 ・「未然防止」という点で、「可能性は低いけれども、このようなことが起きるかもしれない」という視点を常に持ち、今以上の危機感を持って接していくことが必要である。また、職員研修を適宜行い、いじめに関する職員の意識の向上を継続して図っていく。 ・トラブルが発生した場合に、頭で理解するだけではなく、心で納得するように、粘り強く指導していく。 ・SCの給食巡回を継続し、支援を必要とする生徒に素早く対応ができるよう、アドバイスをいただく。 ・継続して、その生徒を注意深く見て、声をかけることをしていく。 ・生徒の変化にすぐに気づけるよう、アンテナを高めて見逃さないようにする。

平成29年度 中井中学校学校評価の結果と分析

8	<p>生) 先生は、親切に相談に乗ってくれる</p> <p>保) 悩みや相談に学校は対応している</p> <p>学) 子どもたちや保護者の悩みや相談に対して対応できている</p>	81%	82%	100%	<p>・生徒、保護者、職員ともに80%以上であり、達成できているといえるが、前年度と比較すると、生徒-4%、保護者-2%と若干減少という結果である。</p> <p>・保護者に関しては、学校の様子を、教育相談や授業参観、懇談会以外にも、学級通信や学年便り、問題行動発生時以外にも電話連絡をするなど、「安心感」を持つように続けていくことが必要と思われる。</p> <p>・「解決」が必要なのか、「傾聴し激励する」だけでよいのか的確に判断する必要がある。また、訴えがなくても職員が気になったことはささいなことであっても声掛けをするなど、ちょっとしたコミュニケーションの増加が、大切であると考えられる。</p>	<p>・職員は、原則複数対応と、中学校での教科担任制を生かし、学級担任にとらわれず、教科担任、部活動顧問、学年職員など、生徒に、どの職員が話を聞くのが一番ベストであるかを選ばせる機会も必要であると思われる。その生徒が一番心を寄せている教員が対応してくれることが、生徒に、「安心感」を生むものと思われる。</p> <p>・問題解決への糸口を探す際に、複数での対応が必要と思われる。早めに生担会などで話題にし、状況によっては臨時的ケース会議を実施し、支援の方向性を5W1Hを明確にしなが、共通理解をはかっていく。</p> <p>・SCの職務が、生徒・保護者に対してのカウンセリングだけにとどまらず、職員の指導に対するスーパーヴァイジングにも、積極的に連携してもらう。</p> <p>・いつでも相談に乗る、話が聞けるという姿勢で生徒と接する。</p>
9	<p>生) 学校生活は楽しく充実している。</p> <p>保) 子どもは楽しく学校生活を送っている</p> <p>学) 子どもたちが学校生活に魅力を持つよう、それぞれ教育活動を工夫して取り組んでいる</p>	79%	92%	100%	<p>・おおむね80%であり、ほぼ達成できているといえるが、前年度と比較すると、生徒-8%、保護者-1%と減少してきている。</p> <p>・学校生活全般で考えると、子どもの居場所を作るために、その生徒が一番力を発揮し、充実できることはなんであるかを判断し、活躍できる場を生徒個々に与えることが必要と考えられる。</p> <p>・保健室、相談室(SC)などを、昼休みや放課後に開放している。悩みを抱える生徒の心のよりどころとなれるように、一層充実させることが必要であると考えられる。</p> <p>・生徒の「学校楽しいよ」という言葉で、保護者の方の安心が増加していくと思われる。100%というのは大変難しいことであるが、これを目指して、生徒と保護者と教職員のよりよい信頼関係を結ぶ行動を大切にすることが必要と思われる。</p>	<p>・真剣に、またはじめが楽しくしている状況を、子どもたちの学びを、コーディネートしていくことが必要と思われる。今以上に、わかりやすく楽しい授業、学級では係活動や委員会活動での活躍できる場、規律の指導も含めて一生懸命になれる部活動など、生徒が輝く場の設定を、あくまでも主役は生徒であることを念頭に置き、実施していくことが必要であると思われる。</p> <p>・ささいなことでも、職員に対して悩み等を打ち明ける機会が増えてきていると感じられる。保健室、相談室の開放により、安心できる環境が増えていると思われるが、来年度もできる限り開放していく方向でいきたい。</p> <p>・完全であること完璧であることは本当に困難であるが、100%という目標に向かって、教職員も努力する。それにはまず、職員室の雰囲気作りからであると考えられる。現在明るい雰囲気になっているが、今後もこれを継続、向上するよう全職員が、何よりもまず人間関係づくりを学んでいく。家庭で家族の中がよいと、子どもがうれしく思うように、職員同士のより良い関係を、子どもたちのよきお手本となるようにしたい。</p> <p>・保健室は受け入れる体制を常に持ち、話を聞き情報や生徒の変化をすぐに他の職員と共有し、共通理解をはかる。</p>
10	<p>生) 友だちや先生、地域の人にあいさつをしている</p> <p>保) 子どもたちは、家庭や地域であいさつができている</p> <p>学) あいさつができるよう指導を適切に行っている。</p>	88%	86%	100%	<p>生徒・保護者・教師ともに高い数値を示している。生徒会本部やPTAの方々によって定期的なあいさつ運動が行われている。また、各部活動においても挨拶や礼儀の重要性を日々指導しており、あいさつの大切さを理解している生徒が増えてきている。</p>	<p>これからも学級・学年・部活動指導の場など、様々な場面であいさつの大切さを理解させ、いつでも、誰にでも、気持ちのよいあいさつができるように指導を心がけていきます。また、生徒会やPTAによる朝のあいさつ運動も引き続き継続して実施していきます。</p>
11	<p>生) 先生方は家庭に学校の様子をよく知らせている</p> <p>保) 学校は、学校公開や学校・学年・学級通信・マチコミメールなどにより、子どもたちの生活の様子や地域活動の情報を伝えている。</p> <p>学) 学校は学校公開や学校・学年・学級通信、ホームページ・マチコミメール等で学校教育に対する理解を深めている</p>	77%	89%	100%	<p>教師・保護者は学校の情報をよく伝え、よく伝わっていると感じている。これは、担任の学級通信、学年便り、学校便りが定期的に発行されていることや、マチコミメールの発信などによって情報が十分に各家庭に届いていると判断している数値である。生徒は、身の回りで日々起こっているできごとや自分の悩み、また思いなど全てにおいて学校が家庭へ情報を発信しているかどうかをイメージしていると思われ、情報伝達は十分ではないという数値にあらわされていると考えられる。</p>	<p>学級通信・学年だより・学校通信・マチコミメールは今後も継続して発信していきます。マチコミメールの加入率をあげるように宣伝活動を強化していきます。通信や学年だよりは保護者への連絡方法であると同時に生徒に向けてのメッセージでもあることを配付時に伝えていきます。</p>
12	<p>生) 家庭で読書をしている。</p> <p>保) 子どもは家庭で読書をしている</p> <p>学) 子どもが読書に取り組むための指導を適切に行っている</p>	48%	35%	91%	<p>生徒は毎朝、静かに読書に向き合っているため教師は高い数値になっている。生徒・保護者ともに肯定的な回答が50%を下回った。部活や塾で忙しい子どもに親もあえて読書を強くすすめることはなくなってきているとも考えられる。スマホやゲームに費やす時間が圧倒的に増加してきていると考えられる。</p>	<p>読書の楽しみや人生の中で出会った本の経験など、いろいろな授業の中で教師も生徒に読書の魅力を語っていくようにしていきます。図書委員会の図書便りで生徒から本の紹介をしたり、担任による学級文庫の一層の充実、また各学年フロアに設置した読書スペースのPRなどを積極的に行っていきます。</p>
13	<p>生) 中学校は地域との関わりを大切にしている</p> <p>保) 学校は地域との関わりを大切にしている</p> <p>学) 中井中学校は地域との関わりを大切にしている</p>	81%	88%	100%	<p>生徒・保護者・教師ともに肯定的な回答が示された。これは、中井町の各種団体のご協力を得て行っている「お年寄りとのパークゴルフ」「地域防災訓練」「地域のひととスポーツを楽しむ」「中井を見て歩く」などの学校行事が数多くあることが要因と考えられる。</p>	<p>今後も総合的な学習の時間を中心として、地域の方との交流を深め、地域に支えられている、地域に守られている、地域の一員であるという自覚をもてるように、様々な実践を積み重ねていきます。</p>
14	<p>生) 学校は清掃活動を熱心に行っている</p> <p>保) 学校は清掃活動を熱心に行っている</p> <p>学) 中井中学校は清掃活動を熱心に行う学校である</p>	82%	84%	86%	<p>質問の仕方が変わったため、生徒及び保護者の肯定度のパーセンテージが上がったと考えられる。清掃への取り組みは、全般的にまじめに取り組み、よくやれていることが、生徒・保護者・教員に認識されていると考えられる。</p>	<p>校舎は古くても、清掃がしっかりなされていて、綺麗な学校であるとの自覚を生徒にもてるように、日頃の中で、生徒に啓発していくことが大切であると考えられる。</p> <p>また、「トイレを磨く、自分をみがく」の行事を通して、清掃の大切さや、一生懸命取り組むことの大切さを生徒の心にしっかりと、しみこむようにしていきたい。</p>
15	<p>生) 学校は安全で安心な学校である</p> <p>保) 中学校は安全で安心な学校である</p> <p>学) 中井中学校は安全で安心な学校だと思</p>	79%	88%	100%	<p>昨年度よりも、学校内での生活にやや落ち着きが見られるようにも感じるが、全般的には中井中は落ち着いており、それが数値として表れたと言ってもよいのではないだろうか。</p>	<p>休み時間や昼休みなども、教員が当番制などを使って自主的に生徒の安全を見守るようにしている。こういった取り組みを今後ともしっかり続けていくことが大切だと思。また、いじめ点検カードなどの活用で、教員側からの声かけも充実させていきたい。</p>